

# 平成28年度沼津市パークマネジメントプラン策定業務 概要版

## 沼津市パークマネジメントプランとは

### 1-1. 目的

今日、公園を取り巻く情勢は大きく変化し、より効果的、効率的な運営管理を求められる一方で、市民ニーズの多様化、高度化への対応が必要となってきた。沼津市（以下、本市とする）においても、これまで市内全域で公園緑地の整備とその維持管理に取り組んできたが、少子高齢化や人口減少などに伴い、年々厳しくなる財政状況、人材の不足などにより、新しい公園の整備や充実した維持管理などの対応が十分に行き届かない状況となっている。

このような状況を背景に、今後これまでと同様な行政主体での維持管理、運営管理を継続していただければ、地域や公園ごとの多様な市民ニーズに答えていくことは難しく、公園が本来有する機能や魅力を十分に発揮することができなくなると考えている。

そこで、行政だけではなく、市民、事業者、地域コミュニティなど、様々な主体の参加・連携により、新たな発想で本市の資産である公園緑地を効果的に使いこなし、質を高めていくことが必要となっている。

「沼津市パークマネジメントプラン」はこのような取り組みの方針や手法例をとりまとめ、行政、市民、地域住民、学校、民間事業者などが互いに連携し、これからの公園緑地がより魅力的で安全・安心や交流の拠点など多面的役割を發揮し、有意義な場となっていくための指針とすることを目指して策定するものである。



公園でのイベント開催



地域住民や企業による公園清掃活動



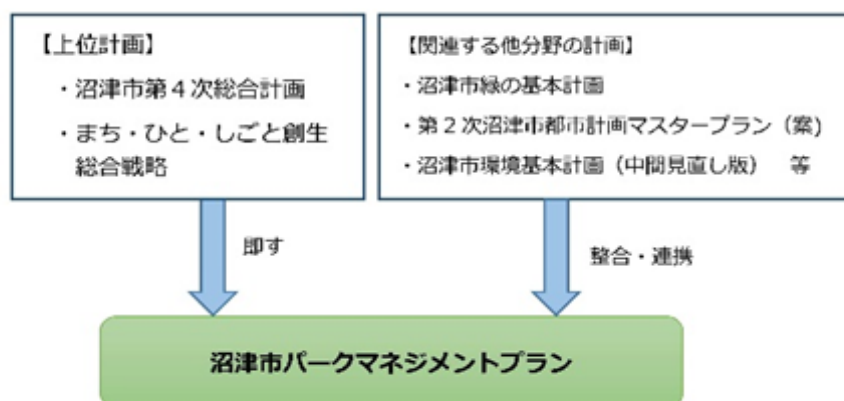
### 1-2. 『パークマネジメント』とは

一般に「マネジメント」とは、「経営管理」と訳され、人・資金・時間などを最も効果的に用い、組織を維持・発展させることである。それを踏まえ、『パークマネジメント』は「各公園の理念、基本計画、基本方針に則り、顧客である市民の利益を増進することを念頭に、管理運営の目標を明確にし、管理運営のあり方を戦略的に企画し、諸条件を踏まえた管理運営計画を立て、それを効果的、効率的に実践するとともに、実施成果を計画目標と比較・分析し、必要な軌道修正や対策を図ること」（出典：「公園管理ガイドブック」（一般財団法人 公園財団））と定義されている。

この「沼津市パークマネジメントプラン」は、本市内の公園緑地の運営管理において、効果的に公園を運営し、市民が使いこなししていく高品質な空間に発展させるため、公園緑地の運営管理のあり方を目的別で考え、市民、事業者、行政それぞれが実践につなげていくための指針とする。

### 1-3. 位置づけ

「沼津市パークマネジメントプラン」は、本市の上位計画に即し、主な関連計画との整合や連携を図りながら取り組んでいくものとする。



## 対象となる沼津市の公園緑地の整備状況

種別	都市計画公園				その他の開設済み都市公園		開設済み都市公園合計	
	計画決定		開設済		箇所	面積	箇所	面積
	箇所	面積	箇所	面積				
街区公園	49	11.42 ㍒	48	11.06 ㍒	81	3.14 ㍒	129	14.20 ㍒
近隣公園	7	15.8	5	5.6			5	5.6
地区公園	1	5.1	1	1.11			1	1.11
総合公園	2	28.8	2	22.44			2	22.44
運動公園	2	77.2	1	60.14			1	60.14
風致公園	5	186.5	3	25.45			3	25.45
小計	66	324.82	60	125.8	81	3.14	141	128.94
緑地緑道	4	14.3	3	3.21	4	0.75	7	3.96
その他					3	4.70	3	4.70
合計	70	339.12	63	129.01	88	8.59	151	137.60
市民一人当りの面積								6.80 m <sup>2</sup>

平成 28 年 3 月末時点

## 沼津市の公園緑地の運営管理における課題

### 全市的な課題

- A. 県内外の多くの人々が交流し、にぎわいを創出  
【キーワード】交流人口の拡大、中心市街地の活力低下 など
- B. 子どもから高齢者までの豊かな暮らしに寄与  
【キーワード】定住人口確保、転出超過による人口減少、  
高齢化による都市全体活力低下、子育てしやすいまちづくり など
- C. 地域コミュニティによる柔軟な使いこなしを実現  
【キーワード】ニーズに対応するきめ細やかな管理運営、適切な維持管理 など

### 地域的な課題

### 【沼津市の公園緑地運営管理の課題まとめ】

#### ① 市内外の人々の活発な交流によるにぎわいの創出

民との連携強化により、市外・県外など広域から本市を訪れるきっかけとなる魅力と集客力を高めていく公園運営が求められる。

#### ② 子どもから高齢者までの安心安全で豊かな暮らしへの寄与

子どもから高齢者までの様々な世代が日常生活の中で安心して楽しみながら過ごすことができ、また誰もが安全に利用できる公園運営が求められる。

③ 地域が主体となった柔軟な使いこなしを実現

地域の体制やニーズ、課題に応じて、それぞれの公園に適した利活用が可能となるや公園運営が求められる。

沼津市パークマネジメントプランの基本方針

公園から魅力あふれる沼津の暮らしを創造する

【基本方針】

1. 楽しく使いこなせる公園

市民が主体的に  
楽しく使いこなすことで、  
地域への愛着を育て、  
暮らしやすい  
地域を実現

2. みんなの舞台となる公園

人々が集い、交感し、  
つながりや創造を  
生む空間とすることで、  
暮らしの豊かさを高め、  
地域の魅力を創出

【公園運営の3つの視点】

A 年間を通したにぎわい・交流を目指した公園運営

B 子どもから高齢者まで様々な世代が利用したくなる公園運営

C 地域コミュニティによる柔軟で楽しい公園運営

パークマネジメントプランの展開方針

A 年間を通したにぎわい・交流を目指した公園運営

方針1：（仮称）公園利用協議会の設置

民間と行政と一緒に、公園運営の仕組みや利用ルール、テーマなどを検討するとともに、活動の許可申請窓口や地域への周知などを行う組織を設置する。

方針2：テーマ別のイベント情報やスケジュールが情報発信される仕組みづくり

興味のあるテーマのイベントや活動の情報を発信し、同じテーマに興味がある人をつないだり、集まって一緒に活動できる機会を創出するための情報発信を行う。

方針3：空間やサービスの質の向上に貢献する収益事業を認める仕組みづくり

収益の一部を還元し、公園利用者のための上質な空間整備やサービス提供へとつなげる仕組みなど、空間やサービスの質の向上に貢献できる収益事業は認められるように条例等を見直し改正を進める。



#### 方針4：公園利活用PRイベントの実施

モデルイベントの実践を通して、公園でできることをわかりやすく発信する。

#### 方針5：公園利活用の手引き・やることリストの作成

利活用のルール、“できないこと”、“許可があればできること”などを、誰もが理解しやすくする。利活用に際して必要になる情報をワンストップで入手できる仕組みを構築する。また、申請の手順などがわかるような情報発信の仕組みを構築する。

#### 方針6：webによる許可申請や利活用実績確認の仕組みを構築

インターネットなどを用いて、申請の手順など、公園利活用に関する情報入手や、公園利用に関する申請ができる仕組みを構築する。

### B 子どもから高齢者まで様々な世代が利用したくなる公園運営

#### 方針1：多世代で楽しめるイベントや公園の魅力を活用したイベントの開催

自治会等で既に行われている防災訓練やお祭りを子どもが楽しめる視点で工夫して参加を促したり、高齢者が中心でプレーしているグランドゴルフを子どもたちと一緒に行う大会や遊具を使用した健康づくり教室、移動図書館など、多世代で楽しめるイベントや行事、花や施設など公園の特色ある資源を活かしたイベントを行うことで、多世代が楽しめる公園とする。また、大人を主なターゲットとしたマルシェやカフェの開催など、大人が公園へ来たいくなる魅力的なイベントを開催する。

#### 方針2：安全で安心して楽しい遊び場づくりの取り組み実施

子育てセンターや保育園、学童保育施設など、周辺の子育て関連施設の協力やプレーリーダーの派遣や、自治会メンバーや地域の高齢者などによる昔の遊び紹介など、子どもの遊びの見守り体制や仕組みを地域で考えて取り組む。また、子どもを見守りやすい休憩施設の設置や、車椅子やベビーカー利用に配慮し、公園全体のバリアフリー化を実現することで、子どもや子育て世代だけでなく高齢者にも利用しやすい公園とする。

#### 方針3：樹木や花壇などを楽しく維持管理する活動の実施

自治会や小学校などが協力し、樹名板や花壇プレートづくり、枝切りした木材や拾った落ち葉やどんぐりなどを利用した工作教室など、子供、親、地域住民間の交流を促し、楽しみながら公園の維持管理を実践できる活動を実施する。張芝イベントやベンチづくりイベントなど、維持管理作業をイベントとして実施し、その際に参加者みんなで公園清掃を行うなど、地域の力で楽しく公園を良くする活動を行う。

#### 方針4：使いやすいルールの設定や目的に応じた活動チームづくり

地域の公園利活用への要望に柔軟に対応できるルールを地域主体で検討・設定したり、公園の利活用に関する相談窓口や、イベント開催に向けた目的別の活動チーム結成など、実践可能な体制づくりを行う。

### C 地域コミュニティによる柔軟で楽しい公園運営

#### 方針1：公園独自のルールづくり

地域の身近な公園を対象に、希望する公園愛護会や自治会など、公園を自主的に管理運営する地域組織やグループと市との間で、公園独自のルール作りを行う。

独自ルールの内容としては、草刈りや清掃など現在公園愛護会などで実施している公園維持管理作業内容について、地域が希望する管理作業の個別追加や、公園を活用して毎年定期開催している地域イベントなどの許可申請手続きの簡素化などを設定する。

#### **方針 2：公園の利活用を推進するサポートチームの発足**

日常的に公園清掃などの管理作業を担っている市内の公園愛護会や自治会などは、いずれも高齢化や人手不足の状態にあるため、前任の自治会役員や有志メンバーなどで構成する「(仮称)公園利活用サポートチーム」を発足させる。サポートチームは、公園運営の仕組みや利用ルール、公園での活動やイベントテーマなどの検討を行うとともに、活動の許可申請窓口や地域への周知活動など、公園の利活用促進に向けた地域コミュニティ組織の支援活動を行う。

#### **方針 3：地域の公園利活用に貢献する収益活動を認める仕組みづくり**

自治会など地域コミュニティ組織が公園で開催するフリーマーケットや模擬店などの収益活動で得られた収益を公園での地域イベント開催などの財源として還元するなど、自治会など地域コミュニティ組織の責任で公園利活用ための資金を集め使用できる仕組みを構築する。

#### **方針 4：地域で公園運営についての意見交換の場づくり**

上記の公園利活用サポートチームなどの主催により、住民が気軽に意見交換できる機会を年に1回以上開催し、公園の活動を通じて、地域が抱える課題や普段感じている要望への対応を地域で考える場とする。またこの意見交換の場を通して、住民がお互いに交流し、趣味や得意なことなどを共有することで、新たなつながりや公園運営で活躍できる地域人材の発掘へとつなげる。